

1 単元 2けたでわるわり算の筆算

2 指導計画（9時間完了）

- (1) わり算の筆算 . . . 4時間
- (2) 商が2けたになる筆算 . . . 1時間（本時）
- (3) わり算のせいしつ . . . 3時間
- (4) 電たくを使ったわり算 . . . 1時間

3 本時の指導

- (1) 目標
 - (3けた) ÷ (2けた) で答えが2けたになる筆算の計算をすることができる。
【ノートの記述】(表現・処理)
 - (3けた) ÷ (2けた) で答えが2けたになる筆算の仕方を理解することができる。
【活動の様子・ノートの記述】(知識・理解)
- (2) ICTを活用することによる効果
 - 子どものノートと同じ5ミリ方眼のマス目を電子黒板の背景として用意し、どのようにノートを使っていくとよいかを示すことで、子どもがノートを適切に使うことができる。
 - 子どもが答えを発表する際には、電子黒板に解答を書かせることで、ノートの使い方が適切かどうかを全員で確認することができる。
- (3) 準備

教師：電子黒板、ノートパソコン、プロジェクタ、マグネットスクリーン、タッチペン、
計算タイムプリント
- (4) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
7分	1 既習の計算を練習する。(計算タイム)	○ ワークシートを使って、(3けた) ÷ (2けた) で答えが1けたになるわり算の筆算の計算を練習させる。	○ 既習の筆算の計算ができているか、ワークシートの記述からつかむ。
5分	2 問題を把握し、本時の課題を知る。	○ 教科書は閉じさせる。	○ 計算の見当がつけられているか、活動の様子からつかむ。
(2分)	(1) 立式する。 (552 ÷ 24)	商が2けたになる筆算の仕方を考えよう。	
(3分)	(2) 十の位に商がたつことを確認する。	○ 手隠し法を使い、55まで現れた時点で商がたつことを確認させ、新しい課題であることを意識させる。	
10分	3 計算の仕方を知る。	○ 「52 ÷ 2」を例題として挙げ、「たてる → かける → ひく → おろす」を繰り返して解いたことを想起させ、2けたでわる場合も同じようにして解けばよいことを伝える。 ○ 手順を一つ一つ確認しながら、電子黒板を見て同じようにノートに書かせる。	○ 筆算の仕方を理解しているか、活動の様子やノートの記述からつかむ。

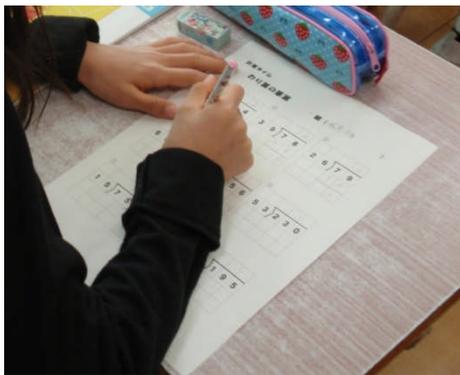
3分	4 練習問題を解く。 ($672 \div 32$)	○ 問題を考えている間、電子黒板に筆算の手順をアニメーションで表示する。	○ 筆算の計算が できているか、ノ ートの記述から つかむ。
5分	5 「 $730 \div 24$ 」の筆算 の仕方を考える。	○ 一の位には0がたつことを確認させる。 ○ 0をたてる際、省略した書き方があるこ とを伝える。	○ 筆算の仕方を 理解しているか、 活動の様子やノ ートの記述から つかむ。
15分 (9分)	6 筆算の練習をする。 (1) 練習問題を解く。 $\left. \begin{array}{l} 825 \div 25 \\ 550 \div 26 \\ 683 \div 84 \\ 950 \div 19 \end{array} \right\}$	○ 問題を考えている間、電子黒板に筆算の 手順をアニメーションで表示する。 ☆ 商の見当付けや、その修正がうまくでき ない子どもには、個別に指導する。	○ 筆算の計算が できているか、ノ ートの記述から つかむ。
(6分)	(2) 答え合わせをす る。	○ 電子黒板を使って答えを発表させる。 ○ 答えがあっているかを確認すると同時 に、筆算を書く位置が適切かどうかもチェ ックする。	

4 実践の様子

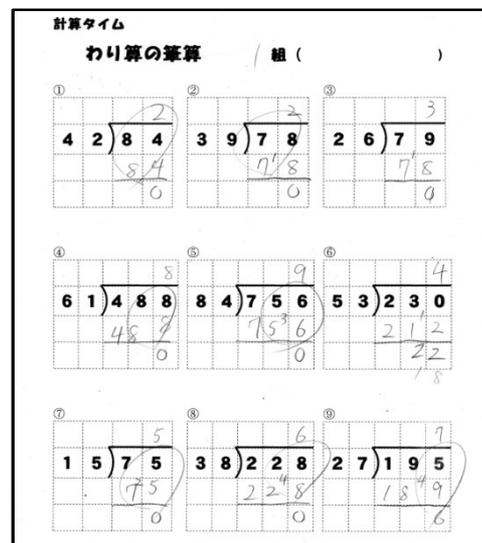
(1) 計算タイム

既習の計算を練習し、想起させるために、プリントを使って5分間取り組ませた。

子どもの意欲を高めるため、全問正解の子どもには、シールをはるようにした。



【計算タイムのプリントに取り組む】

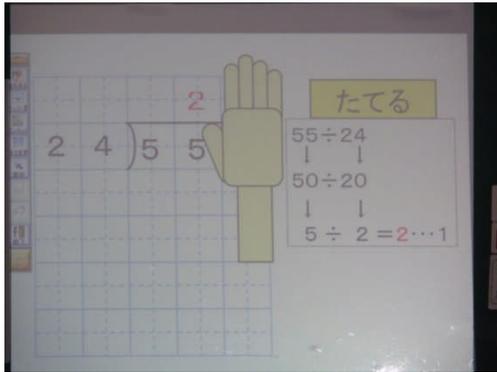


【使用した計算タイムプリント】

(2) 計算の仕方を知る

プレゼンテーション型提示教材を使用し、筆算の手順を説明した。手隠し法を意識させるため、プレゼンテーションの中にも手を登場させた。また、注目させたい部分は点滅させることで強調した。

説明した後、5ミリ方眼の背景に切り替え、教師の書いた通りにノートに書かせるようにした。



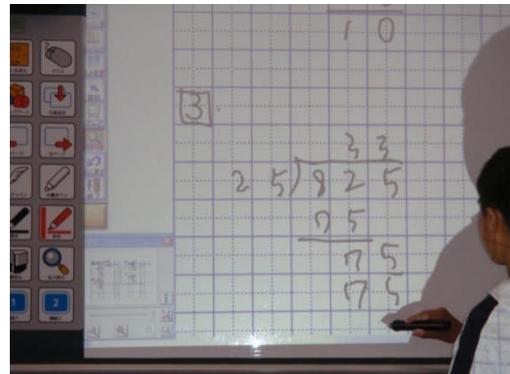
【電子黒板を使って手順を確認する】



【電子黒板と同じようにノートに書く】

(3) 電子黒板を使って発表する。

練習問題を解いた後、子どもに電子黒板を使って発表させた。右の写真の場合、もう1行上に書くとよいのだが、そうした場合には子どもの解答を選択→移動することで、正しい位置を示した。



【電子黒板に答えを書いて発表する】

5 成果と課題

- 5ミリ方眼のマスを大きく黒板に写し、書き込んでいくことで、位取りをきちんとさせ、計算の手順をとらえさせることができた。
- 電子黒板を使って発表させることで、子どもの発表意欲を高めることができた。また、それに伴い、「どの位置に書くとよいか」ということを強く意識させることができた。
- 子どもが書いた解答の位置が適切でなくても、電子黒板では書いたものを移動させることができるので、せっかく子どもが書いた解答を消すことなく、適切な位置を示すことができた。そのため、発表する意欲を高めることができた。
- 手順を示す際に、注目させたい箇所を点滅させることにより、計算の手順を分かりやすく示すことができた。
- アニメーションは見ているうちに次々と変わってってしまうため、見ながら問題を解くということは難しかった。